

## 6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・売上は前年同月比107%、宿泊人数は同118%、宿泊単価は同99%となり、宿泊関連については状況が改善している。前年はイベントを開催したが、今年度は風評被害の影響も考慮し実施を見合わせたにもかかわらず、売上は前年を上回った。
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・食品の放射能汚染問題も落ち着きを見せ、来客数も多くなっている。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・今期になって初めてのことであるが、販売量が前年実績を上回った。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・客単価は上がっておらず、売上は横ばいであるものの、来客数は増加している。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・安い商品、得な商品に目を向けがちだった客に変化がみられ、良い商品、今後必要な商品など価格より商品の内容に目が向いており、関心度が高まっているように思われる。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・果物、菓子などの嗜好品および中元の売上が前年並みに回復した。取引業者からも東日本大震災の影響はほぼなくなっていると聞いている。来年度の採用について、知るかぎり同業他社においても例年並みのことである。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・東日本大震災の影響から低迷していた乗用車の生産体制も整い、販売台数は前年同月比6割まで回復している。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店約100店舗の来客数は、3か月前と比較すれば5%程度伸びており上向き傾向にある。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・高速道路料金の休日上限1000円制度廃止により、週末に集中していた個人旅行客が分散したのか、盆以外も平日が順調に推移した。法人客も例年並みに推移した。6月から安定した集客があり、震災の大きな影響は完全に抜けた様子を感じる。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休み期間中は、家族客を中心に例年並みの入込があった。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊は5月以降好調を維持している。また、宴会、レストランは好調に推移した。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・東日本大震災後の自粛ムードが残る3か月前と比べて、宿泊者数・レストランの来客数などで増加傾向が見られる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・相変わらず国内旅行は客単価が上がっているが、円高で海外旅行が増加し、その分で販売量が確保されている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・真夏日が連続18日となりタクシー利用客があった。また、旧盆時期の帰省客や観光客は前年とほとんど変わらず、人出があったためタクシー利用も増えた。
		タクシー運転手	販売量の動き	・気候が暑かったこともあり、タクシー利用客は多かった。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・スマートフォン需要が好調である。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・スマートフォンに興味のある消費者が非常に多く、一度見てみようという来店する客も多くなった。例年の新商品発表時以上の来店がある。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来客数は前年同月比では7%伸びている。要因は個人客の増加が大きい。ただ、団体客は前年同月比1割以上の減少、海外客は円高、福島第一原子力発電所問題の風評被害もあり、同4割程度の減少となっている。全体としては、夏休み期間ということもあり、前年以上の個人客の来客があった。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・年に1度の地元開催記念レースがあったため、売上、来客数共に増加した。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・フラット35Sの金利引下げの締め切りが当初12月30日までの申し込みであったが、急きょ9月30日までの申し込みに限り適用されることになったため、駆け込み受注がみられる。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・クリアランスセールが終わり、秋物商戦へと移るころに気温も下がり販売環境には恵まれた。また、盆商戦も天候に恵まれデパート中心に盛り上がった。しかし、例年のごとく盆明けは厳しい。	

商店街（代表者）	競争相手の様子	・8月15日以降、閉店や退店が多い。東日本大震災以後の売上減少による採算面での赤字を理由とする先が多いと聞いている。
商店街（代表者）	来客数の動き	・盆明けから天候不順などの影響もあるだろうが、極端に人出が少ない。ゲリラ豪雨、暑さのぶり返しなど、外出を控える要素が多い。
一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・東日本大震災の影響かもしれないが、9月からコピー用紙の原価が上がるかもしれないとメーカーから打診があるなど、今後商品価格の改定、値上げがあるように思える。買い控えなどの動きもさらに考えられる。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・円高の影響が徐々に一般家庭に出始めている。高額商品も一時期の伸びは見られず、しばらく様子見の状態である。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・一番の要因は天候である。盆過ぎから一時的に秋めいた気候になったこともあり、消費の喚起につながった。夏物の単価の低い商品から秋物で正札の単価の高い物に買い物が変わっている。一時的にはやや上向きになったと感じるところはあるものの、基調に大きな変化はない。
百貨店（売場担当）	来客数の動き	・前月と比較すると、来客数はマイナス2.1%、売上も減少、客単価もマイナス5.4%となり、全体の動きに変化はない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価はたばこ値上げの影響が続いて高止まりしているが、客数についてはこのところ微減が続いている。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・県内のコンビニ業界の再編成が終了し、勢いがやや弱くなったように感じているものの、売上は前年同月比110%をここ数か月維持している。予想より健闘している。
コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・昼食用の米飯を安価で販売するサービスを開始し、好調に推移しているものの、それ以外の商品は売上増加にはつながっていない。相変わらず財布のひもの固さを感じる。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前年と比較し、5月の連休、8月の盆など帰省した客が減少している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・大手ディベロッパーが実施している街の活性化やアパレルなどが実施している個店の販売促進が、中小企業の経営をますます圧迫している。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・8月は毎年15日間の夏休みを取っているが、売上や来客数などは従来の傾向と変化がない。
衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・本当に必要なものだけしか購入しない傾向に変わりはしない。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・購入する車種を人気や今売れている車に決めて来店する客が多くなってきた。一方で購入条件や対応次第で簡単に他車種へ変える客もおり、こだわりの選択は薄い。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・今月に入り成約までの日数が長くなり始めた。自動車購入に対して慎重な言葉を現場で多く聞くようになった。
乗用車販売店（経理担当）	来客数の動き	・新車の供給体制は改善しつつあるが、ハイブリッド車や小型車中心のため、高額車両がメインの当社としては厳しい状況に変わりが無い。整備部門や中古車部門が堅調に推移しているので新車部門を若干カバーしている。
住関連専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が若干ではあるが減少しており、なかなか増加してこないのが現状である。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・客の動きに目立った変化が感じられない。東日本大震災の影響が薄れている状態ではあるが、3か月前より劇的に需要が回復しているというほど市場は活発化していない。
通信会社（職員）	お客様の様子	・地上放送のデジタル化移行が終了し、目先の消費意欲が一段落した感があり、客全体として動きが停滞している。
その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・見学者、体験入学者の数が減少し、ここからの正規入会率が低下し始めた。
美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少が止まらない。盆前の忙しくならないといけない時期もそれほどではなかった。

		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・受注単価の実績を分析したところ、なだらかな低下傾向にある。一方で東日本大震災以降完工の遅延を余儀なくされた影響もあり、今後、工期厳守には量的な挽回、集中完工をしなければならず、職人、協力業者に対する発注価格が上昇し、利益面での悪化が避けられない。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・厳しい状況が続いている。同業他社との競争が多く利益率は低下している。
やや悪く なっている		百貨店(営業担 当)	単価の動き	・晩夏物や初秋物がそろっている売場より、猛暑に対応でき、8月中にすぐ着用できるクリアランスプライスのTシャツや短めのパンツなどを多めに持っている売場が売上を伸ばしている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・来客数の動きは、前半は前年並みを維持していたが、盆以降気候の変化とともに減少し、前年比の伸びが縮小している。
		スーパー(店 長)	お客様の様子	・食品の放射能汚染問題でハム、ソーセージなどの惣菜や加工食品の需要、薄型テレビなど地上デジタル放送移行による駆け込み需要で前年同月比150%となるなど、要因が明白なものの動向は良い。しかし、盆以降の豪雨、急激な気温の低下などで衣料品は例年の92~93%と厳しい。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・以前に比べると、来客数が減少している。
		スーパー(総務 担当)	単価の動き	・客数は変わらないが客単価が低下している。8月後半より不安定な天候が続き売上が前年を下回り始めた。商品では7月に続き牛肉の売上が3割減となっている。
		家電量販店(経 営者)	販売量の動き	・テレビ特需の反動が大きい。テレビへの支出がかさみその他の家電商品の買換えが先延ばしになっている。
		自動車備品販売 店(従業員)	来客数の動き	・7月後半より集客が大きく減少しており、今月は前年からも来店数が下回っている状況である。
		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・盆期間だけは好調に推移したが、7月の連休以降低迷している。食品の放射能汚染問題などで小さな子どもがいる家族は外食を控えている。製造業など大手の長期夏休みの影響もあり、家族旅行などにまとめて使うが、他の日は節約していたと聞いている。
		通信会社(役 員)	販売量の動き	・地上アナログ放送が終了したことを受け、デジタル放送対応を目的としたケーブルテレビ契約の獲得は従来に比べ少なくなっている。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・例年8月は盆もあり、販売量は落ちるが、今年是一段と減少している。また、リフォームが増えていることで1件あたりの金額は徐々に低下している。
悪く なっている		コンビニ(店 長)	来客数の動き	・県内コンビニの再編成が終わり、今月、改装後の開店が相次いだため、来客数が減少している。
		家電量販店(店 長)	販売量の動き	・アナログ放送終了とともに、テレビの販売数量が激減した。
		その他専門店 [酒](経営 者)	販売量の動き	・必要でないものは買わない、必要なものを最小限で買っていき客ばかりである。売上がどんどん落ちている。
		スナック(経営 者)	来客数の動き	・開店以来の最悪月で、売上がない日も多くあった。年配の客が主流なため、天候不順や世間の空気感とか、外出しない様子が見られる。また、二次会には行かないということも耳にする。ここ数か月と比較すると売上は6割程度であり赤字である。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	食料品製造業 (企画担当)	受注量や販売量 の動き	・低価格商材だけでなく、既存の高付加価値商材の動きも良くなっている。
		一般機械器具製 造業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・円高基調で経営的には厳しいが、北米、欧州、国内からの受注が増えている
		金融業(融資担 当)	取引先の様子	・東日本大震災による落ち込みからの回復で予断は許さないものの、取引先の売上高、利益の状況にやや好転がみられる。
	司法書士	取引先の様子	・新規開業は少ないものの、子どもに代表取締役を変更する形での事業承継が順調に行われる案件が多かった。	
変わらない	繊維工業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・10月までは全体的に安定している。	

		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅市場はまだ回復に向かっておらず、低迷が続いている状況に変化はない。	
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前月に引き続き、スマートフォン関連の電子部品が好調に推移している。	
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ2、3か月の受注量は、総量的にはほぼ同レベルで推移しているが、特定のいくつかの工程では、その生産能力を大きく上回る受注量となっている。	
やや悪くなっている		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・輸出関連では円高の関係もあって、商談が決まりにくい状況が続いている。	
		輸送業（配車担当）	それ以外	・物流業界は、燃料などの価格高騰によるコスト増に伴い利益が上げにくい現状になっている。また、円高により輸出関係、特に繊維関係の物量が極端に落ち込んでいる。	
		税理士（所長）	取引先の様子	・円高の影響により、大手では計画の変更、一時中断、キャンセルなどが発生している。そのため、下請けの中小企業では、生産調整や受注していた機械の納品延期といった影響がみられる。為替が不安定なため、海外投資を控えているようである。	
悪くなっている		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年なら景気が悪いといっても仕事が出るこの時期であるが、国にも地方自治体にも金が無いらしく、公共工事の発注がほとんど無い。	
		建設業（総務担当）	取引先の様子	・工事件数がやや減少したと思われ、小規模な工事でも1件当たりの見積、入札参加業者が10社以上となり、依然として厳しい受注価格競争が続いている。	
雇用 関連	良くなっている	—	—	—	
	やや良くなっている		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・生産増加による需要に回復感はないが、欠員、産休・育休による派遣利用件数がわずかではあるが増えている。
			人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・設備投資や情報化投資が徐々に回復している影響で、技術者の求人数が増えている。
			求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比較すると、求人情報誌1回の発行につき50件から100件ほど掲載件数が伸びた。
			新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月の求人広告の売上は、前年同月比15%増となった。
	変わらない		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・従業員20人が離職する企業倒産があったものの、新規求職者数は前月比で同水準になると思われる。
			職業安定所（職員）	求人数の動き	・全体的な新規求人数は増加しているが、製造業からの求人が頭打ちとなっている。また、緊急雇用求人の増加が目立っている。
			民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介、派遣とも専門技術職を除いては受注数が依然として増加せず、低迷状態であり上昇機運がない。
			学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で若干減少している状況である。
	やや悪くなっている	—	—	—	
悪くなっている	—	—	—		